

工業簿記A		講義	准教授 岩下 尚義	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目 教職科目	科目ナンバリング	23010203 25320209	

### 1. 授業のねらい・概要

簿記は、対象となる業種により商業簿記と工業簿記に分かれる。商業簿記は商品売買業のように仕入れた商品をそのままの形で販売する業種が対象である。一方、工業簿記は製造業のように材料を仕入れ、加工し、製造した完成品を販売する業種が対象である。工業簿記は商業簿記に比べ、主に「原価計算」を学ぶことで簿記の知識を深めるとともに、モノが製造される仕組みを会計の視点から追うことができる。

本授業では、工業簿記を理解するうえで必要な基本的用語や考え方の説明を行うとともに、様々な原価計算を自らできるようにすることを目的とする。なお、工業簿記Bを併せて履修することで、日商簿記2級工業簿記を受験するための知識を身につけることができる。

### 2. 授業の進め方

講義形式で行う。授業は、インプット（講義）とアウトプット（演習）をバランスよく実施する。インプットは、テキストやその内容をまとめたレジュメなどを用いて説明する。アウトプットは、テキストに収録された問題集などを用いるため、必ずテキストを購入し毎回持参すること。本授業の第14回・第15回では、日商簿記2級工業簿記の過去問題レベルの問題を実際に解き、試験の傾向や対策も説明する。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス ―工業簿記とは？―	10. 個別原価計算のまとめ、演習
2. 材料費 ①（分類と基礎）	11. 部門別原価計算 ①（基礎）
3. 材料費 ②（予定消費単価を用いる場合）	12. 部門別原価計算 ②（予定配賦）
4. 労務費 ①（分類と基礎）	13. 部門別原価計算のまとめ、演習
5. 労務費 ②（予定賃率を用いる場合）	14. 日商2級工業簿記の解き方 ①（仕訳問題）
6. 経費	15. 日商2級工業簿記の解き方 ② （個別原価計算、部門別原価計算）
7. 材料費・労務費・経費のまとめ	
8. 個別原価計算 ①（基礎）	
9. 個別原価計算 ②（予定配賦率を用いる場合）	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読むことが望ましい。また、復習はテキストやレジュメを読むだけでなく、テキストの問題集を中心に問題を解くことが大切である。これらの準備学修には2時間程度が必要である。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日商簿記検定2級工業簿記の合格に必要な計算問題や仕訳について毎回簡単なミニテストを実施し解説する。試験実施の際は、解法手順やポイント、出題意図などを試験終了直後に説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

工業簿記の基本的な概要を理解して、日商簿記検定試験2級工業簿記に合格できるための「基礎」の習得を到達目標とする（後期開講予定の工業簿記Bを履修すると、日商簿記検定試験2級工業簿記の全範囲を習得できる）。

### 7. 成績評価の方法・基準

原則として、授業への取組み姿勢（50%）および定期試験の結果（50%）によって、評価する。

## 8. テキスト・参考文献

テキストは、滝澤ななみ著(2023)『スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記 第11版』TAC出版を使用する。なお、本テキストは改訂される可能性があるが、授業では最新版を使用する。

## 9. 受講上の留意事項

工業簿記は、商業簿記を理解したうえで、工業簿記特有の「原価計算」などを学ぶ講義である。商業簿記の基礎知識があることを前提に行うため、商業簿記(日商簿記3級程度)の知識を有するか、または同時に学習することが望ましい。なお、基礎知識がない場合でも理解ができるように解説していくため、疑問点や不明点があれば積極的に問いかけてください。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、税理士としての実務経験も活かして指導する。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。